民間企業による市民コミュニケーション
～浜松コンセッション～

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

浜松市の事例

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

「みんなの下水道教室」

小学校4年生を対象とした出前授業
下水道の仕組みや役割、必要性を体験してもらう内容
2019年度に市内11の小学校で延べ30回、915名の児童を対象に実施

「はままつ上下水道フェスタ」への参加

毎年浜松市が大型ショッピングモールで開催する市民向けイベントに参加
当社展示スペースにて、活性炭による脱臭、ろ過実験を行い、来場者にノベルティを進呈
160名の市民が当社ブースに来場（2019年）

清掃活動

浜松市や国交省が主催する、市内清掃活動に参加
・ウェルカメクリーン作戦（浜松市主催の海岸清掃）
・天竜川クリーン作戦（国交省主催の天竜川河川敷清掃）

浜松市の事例

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

ニュースレター「シンフォニー通信」「環境レポート」の発信

年2回「シンフォニー通信」を発行し、HP上に掲載。浜松市上下水道部、市役所、市内図書館に配架、また地元町内会の回覧板にて回付し、会社の活動状況を報告
印刷部数：1,000部

隔年1回「環境レポート」をHP上に掲載。循環型社会の形成など、環境に対する取り組みを掲載

2018年度
環境レポート

「地下下水道のヒミツを探ろう」

下水道ふれあいイベントの開催
・場内見学
・打ち水による気温変化の体験
・顕微鏡による微生物観察
・活性炭による臭いと色度除去の実験
・トイレットペーパーによる溶解実験
・下水道クイズ

2018年度参加者は15組42名、2019年度参加者は22組65名の参加

浜松市の事例

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

下水道施設見学の受け入れ

市民や団体からの施設見学の受入を随時実施。
安全指導の後、下水道の仕組みや当社の事業内容、施設について説明し、場内を案内。市民の本事業への理解を促進

	行政	学校	有識者	一般
2018年度	384名	492名	-	163名
2019年度	126名	369名	52名	122名

ソーシャルビジネス

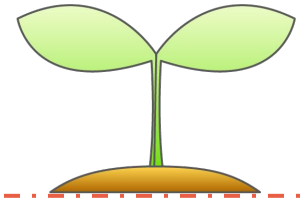
「サーキュラーエコノミー」をテーマとして浜松市で社会起業家を募集。2020年1月から5組6名の社会起業志望者を受け入れ、オンライン/オフラインでの講義及び毎月の個別カウンセリング、SNSでの意見交換を実施
事業アイデアの深堀り、事業計画の策定、提供価値の言語化、マーケティング計画、顧客調査、商品サービス説明書の作成、顧客ターゲットの選定、プロモーション動画撮影計画から実務準備に至るまでの過程をサポート

今後の展望

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

地域に根ざした企業

KPI（重要評価指数）の1つとして、雇用者の市内在住者比率を80%以上とする目標を掲げている。市内企業として定着し、市民に親近感を持ってもらうことで事業への理解の促進を目指す



下水道の市民科学

浜松市・GKPチーム市民科学の方々とブレーンストーミングなどを交えながら協議し、市民・職員が持続可能な市民科学を支援する

養鰻パイロット事業

2025年頃となるが、地元漁業組合や養鰻業者等と連携し、焼却炉の廃熱と水温自動制御を導入した養鰻のパイロット施設を敷地内に設置し、事業性の検証を行う予定。地元の産業発展への寄与を目的としている。また、実験棟内部には見学コースの設定なども検討する予定

ご清聴ありがとうございました。

浜松ウォーターシンフォニー株式会社
HAMAMATSU WATER SYMPHONY

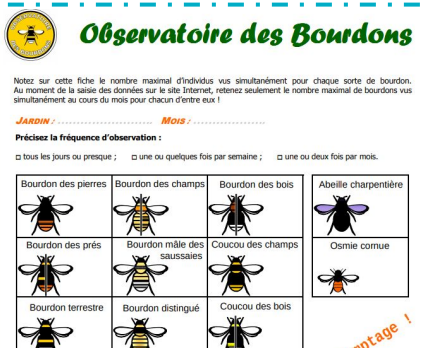
民間企業による市民コミュニケーション
～フランスの事例～

ヴェオリア グループ
市民科学：フランスの事例

「水教育キット」

ヴェオリアの委託先地域にある小学校に無料配布。
教育省の方針に従って多様な観点から（科学、史学、地理学、社会学、文学、美学）水の勉強を推進。
・水をテーマにした15個の実験素材
・教師用の説明資料と関連教育課題
・教室用ポスターと約30冊の貸出用の関連図書

1995-2008年で約20,000個を配布



マルハナバチを通した生物多様性の保護活動

自然環境の状態を表すマルハナバチの監視と、生物多様性の保護活動を行う
Observatoire des Bourdons を支持し、以下の3活動へ支援：
・学生約2,500人を対象とした意識向上活動
・自治体の分析と対策の研究
・マルハナバチ総数の監視

マイクロプラスチックのデータベースを作成

ヴェオリア財団がパートナーとして支援するタラオセアン財団は中高校生の協力を得て、主導しているプログラムの一貫としてマイクロプラスチックのデータベースを作成。研究だけでなく、政策策定支援資料にも使用されている
2020年のパイロットが成功。2021年から約130校に拡大予定

ヴェオリア グループ
市民科学：フランスの事例（上水）

水道水の試飲イベント

ヴェオリアの水研究センターは、定期的な水の試飲イベントを開催。盲検法で水を飲む参加者から味、匂いなどについての感想を集め、飲用水に適した水道水となるよう水質改善に取り組んでいる

参加者は、水に含まれる物質を感覚で知ることにより、地元の水の特徴などについて学ぶことができる

JIMIアプリ

SEDIFとヴェオリアは2020年に「JIMI」（情報を提供します、情報を得ますの略）アプリを公開

漏水や消火栓の破損など、水道管網の問題を見つけた市民がアプリを通じて報告することで、近隣の水道利用者や SEDIFにいち早く情報が届くシステムを構築

加えて、市民は地図機能を使い、管路工事等の実施状況をリアルタイムに確認することができる

Q&A